

次年度に向けて

早いものでグループホームの管理者として就任し1年が経過します。障がい者の方が地域でその人らしい生活を実現するため試行錯誤しながら運営管理をしてきました。障がい者の方が地域で生活するために支援形態や施策「介護サービス包括型・外部サービス利用型事業所、サテライト型事業所、地域定着支援、日中支援等」が国から提案され、個々に合わせた体制づくりが行われているところです。しかし、新しい制度を利用するに当たり、課題が多くあり現状を維持していくことに留まっています。

次年度は、現状の運営体制を維持しながらも、個別に合わせた支援体制がどのようにすれば実現可能であるか検証をすすめ運営体制を整えていきます。まずは、4月から事業所の再編を行い組織力・支援力を強化していきます。また、定員4名の小グループユニットを閉鎖し、入所希望のニーズに応えるよう定員7名のユニットとして施設整備をしていきます。

新しい事業所体制は、以下のようになります。

現状の事業所は、あだちの里第1ホーム～第5ホーム、足立区大谷田グループホームの6事業所として運営しています。地域性、利用定員の均衡、職員配置の均衡を図り、4事業所としていきます。

- 1、あだちの里北ホーム（秋桜寮・なすな寮・旭寮・杉田寮・あじさい寮・だりあ寮）
- 2、あだちの里西ホーム（つくし寮・なのはな寮・西竹の塚寮・磯寮・とちの木寮・おきの寮・やまみ寮）
- 3、あだちの里東ホーム（宇津宮寮・西綾瀬寮・東和寮・第二東和寮・第三東和寮・第四東和寮・カサブランカ）
- 4、足立区大谷田グループホーム「足立区からの指定管理事業所」

*次年度は、28年度後半から実施してきた「グループホーム運営会議」を定例会議として位置づけ、グループホームの在り方を考えていきます。
施設長 宮崎智昭

今年度の運営体制を振り返り

平成28年度も残り一カ月となりました。

年度末、年度初めは色々な動きがあり、日々の生活の中でも忙しく感じてしまう時期でもあります。どこの事業所においても同じことが言えるのではないのでしょうか！？

さて、あだちの里地域生活支援センターは今年度新たなスタートをきりました。まず大きく変わったのは、あだちの里地域生活支援センターが目指す「3年後のゴール」が新しくなり、今年度はその一歩目の一年でした。

あだちの里地域生活支援センター「3年後のゴール」

- (1) 事業所（拠点）毎に独立した運営・管理の確立と、法人全体で利用者の地域生活を支える体制づくりを行います。
- (2) 多様化するニーズに対応できるように支援内容（日常・余暇・行事）の強化を図ります。
- (3) 地域で自立した生活を希望される障がい者が、夢を実現できるように必要に応じて事業所の開設に取り組みます。
- (4) 障がい者の主体性を尊重した地域生活を支えられる様に、各職員の専門性の向上を図ります。

独立した運営に向けて

ゴールの一つにあるように、事業所のあり方も「第1ホーム」「第2・第3ホームの連携」「第4・第5ホームの連携」「大谷田グループホーム」と変化しました。

各寮への訪問支援には、ほぼ担当者のみが支援に入るため、支援情報は共有しやすくなりましたし、支援の継続性につながったことは大きなメリットでありました。例えば体調面の変化に関しては、日々の状態を確認して通院に繋がったり、利用者の抱える悩みに対してもホーム内のどの職員も共有して対応に繋ぎやすくなりました。

反面、他ホームの利用者状況が見えにくくなったということもありますが、今後、事業所毎の独立した運営を目指すためには、ありとあらゆる面で試行の連続でした。

行事内容の変化

今まではグループホーム利用者全体で行っていた（行き先などアンケート等をとっていた）行事を今年度から各ホームや地区ごとで行ってきました。大人数での活動、移動というのはなくなり、少しだけ細分化された活動となり、また、担当ホーム職員がほとんどの為、今までより目が行き届きやすくなったメリットがありました。

しかしながら、今、あだちの里では「利用者の高齢化」がよく声に挙がっているように、我々、地域生活支援センターも特に深刻な課題であると捉えています。それ故に、少しでもニーズに沿った活動提供が求められ、拠点毎の動きや企画が今まで以上に大切になってくると感じています。

また、事業所毎で運営していくという観点でみると、ホーム毎に余暇の充実を力を入れてきた一年であったと思います。ホーム毎でサークル活動を企画したり、今年度から始まった自治会を通して、寮の皆さんでお出かけの企画をしてきました。最近では、ツアーに申し込み、イチゴ狩りを楽しんできた寮もありました。小集団で動くこと、企画することで、自然と利用者との関わりも深くなり、新たな発見に繋がったこともあり、ひとつの成果でした。

2年目を迎えるために

このように大きな変革を迎える1年目になりましたが、一つに事業所毎の運営にはまだまだ先があり、計画的な進行が求められます。現状ではどうしてもホーム内の支援員だけでは収まらない勤務配置もあります。そのため、グループホーム利用者の増加に伴い、法人内通所施設系との連携が求められてくると思います。各事業所との連携することはグループホームの大きな転換期であるため、我々職員は知恵を出し合いながら進めるほかありません。

さて、28年度末には伊興寮閉鎖に伴い、やまみ寮が開設されます。この記事が発行され、皆様のお手元に届くころには、やまみ寮に入寮される方々は楽しみな想いと新生活のスタートに期待しているところでしょうか！？変わりゆく時代の中、今、我々職員ができることを再確認し「3年後のゴール」に向かって、また一歩を踏み出していきます。
第1ホーム サービス管理責任者 浅沼保則

今年度の思い出

各寮を代表して、下記3名に今年度の思い出について聞いてみました！

Q. 今年楽しかった行事の思い出を教えてください

A. サークルが楽しかったです。工作でニワトリやお面を作ったり、調理をしたりしました。宿泊(9月の第1ホーム旅行)では温泉に入ったり、カラオケで歌ったり、おいしいご飯を食べたりして楽しかったです。忘年会ではくじ引きでマグカップが当たりました。その話をお母さんにすると、「よかったね」といってくれると嬉しいです。

Q. 寮で楽しかった思い出を教えてください

A. 世話人さんに教えてもらって掃除機が使えるようになりました。実家に帰る前に自分で掃除ができるようになりました。

Q. 次年度チャレンジしたい事を教えてください

A. 使った水筒やお箸を自分で洗うことを始めたので、良かったです。これからもやっていきたいです。

第1ホーム 支援員 本多志歩

☆インタビュー☆



なずな寮 服部 和子さん

☆インタビュー☆



西綾瀬寮 新井 健次さん

Q. 今年度楽しかった行事の思い出を教えてください

A. ガイドヘルパーさんと祖師谷にあるウルトラマン商店街に行ったことです。ウルトラマンが大好きで、ウルトラマンやウルトラマンセブンのキーホルダー、ジェットビートルという飛行機のプラモデルを買いました。

Q. 寮で楽しかった思い出を教えてください

A. 西綾瀬寮のメンバーでバスツアーに行ったことです。千葉県のマザー牧場や濃溝の滝、はちみつ工房、イチゴ狩りに行きました。その中でもイチゴ狩りが一番楽しかったです。イチゴを30個も食べたのですよ。次は、温泉に行きたいです。

Q. 次年度チャレンジしたい事を教えてください

A. 1つ目は、「思っている事を相手に伝える」ことです。なかなか、はっきり思いが言えないので世話人さんに協力してもらいながら伝えられるように頑張ります。2つ目は、携帯を持ちたいです。携帯を買う為に、3000円のお小遣いの中から少しずつ貯金をしています。

第4ホーム 支援員 布施雛子

Q. 今年度楽しかった行事の思い出を教えてください

A. 年末年始に行った2泊3日の北陸旅行です。白川郷の雪景色がとてもきれいでした。特に兼六園では金粉を販売していたのが印象に残っています。初詣に皆で大きな鐘を鳴らした事も楽しかった思い出です。

Q. 寮で楽しかった思い出を教えてください

A. 土曜日や日曜日に西竹の塚寮の世話人さんと西新井大師や自分の行きたい場所に外出した事です。また、寮のメンバーと一緒に美味しいお蕎麦屋や、ファミリーレストランでランチをした事も楽しかったです。

Q. 次年度チャレンジしたい事を教えてください

A. 現在も続けている事です。運動を頑張りたいです。うきうき館に週に3,4回通い、ランニングマシーンや自転車漕ぎで汗を流しています。また、職員さんや世話人さんと食事の量を相談し、調節しています。大好きなお菓子も控えるようにして、少しずつ体重を落とす事を目標にしたいです。

第3ホーム 支援員 周藤太郎

☆インタビュー☆



西竹の塚寮 石崎 思穂子さん

SNSトラブルを防ごう！

～大谷田グループホーム主催・勉強会～

2月19日、希望の苑で「勉強会」を開催しました。グループホームで生活しているご利用者を対象にしていますが、今回のテーマは「インターネット・SNSのトラブルを防ぐ」でした。主にスマートフォンを持ち、インターネットの利用をしている方をお誘いして集まっていただきました。入所からも地域移行を控えたご利用者に参加していただき、総勢15名となりました。

KDDIに講師の依頼をしました。全国を歩き「スマホ・ケータイ安全教室」を通してトラブルの防止に尽力している方からお話を聞くことができました。

講義の内容は事例を動画で鑑賞し、みんなで「どこが悪かったのか?」「どうすれば良いのか?」の意見交換をするものでした。答えを導く中で、ご利用者から失敗談や今既に気をつけていること等が発言され、積極的に参加している姿を見ることができました。

事例は「(LINE等の)グループトークを巡る仲間外れについて」「“なりすまし”による被害」「SNSへの写真投稿による社会・家族そして自分の人生への悪影響」の3つでした。ご利用者には講義の後にワークシートで感想等を書いてもらいました。事例を振り返り、その“恐さ”を感じたようでした。

ご利用者の身に何時トラブルが降りかかるかわかりません。その時にすぐ支援者に相談できるかどうかが早期解決への鍵になると思います。私たちも普段からご利用者の様子に気を配り、相談を受けたらすぐに手助けをする。インターネットやSNSへの強い意識と多くの情報を持つ必要性があると感じる一日でした。

足立区大谷田グループホーム サービス管理責任者 星野賢一

1年を振り返り

今年度から毎月1回の発行となりました、あだちの里地域生活支援センターの機関誌では、「あだちの里グループホームで暮らすご利用者について」、「地域生活を支える為の仕組み・支援など」皆様にご覧いただきたく事を目的に発行してきました。

その内容として全体的な運営体制や各寮での支援内容、各行事報告、一部ではありますが、ご利用者の生の声を掲載する為、様々な内容のインタビューも行なってきました。

この機関誌を通して、皆様にも少しでもあだちの里グループホームを知っていただけたなら幸いです。

今後も沢山のことを知っていただけるよう記事内容を工夫し、皆様にご提供していければと思っています。

第1ホーム 支援員 武田泰尚

